

【学校教育活動の重点目標】

◎今年度の学校づくりの「重点目標」

「すべての人が幸せとなる学び舎をめざす」

●「重点目標」の達成に向けた学校づくりの基本方針

- 1 居場所があり、安全・安心な学び舎 ～一人一人が心穏やかに過ごす～
- 2 互いのよさを認め合い、人権を尊重し合う学び舎 ～違う考えの他者とも学び合う～
- 3 「礼節の心」が見られる学び舎 ～相手意識と思いやりの心を大切にできる～
- 4 他者が元気になる活動が見られる学び舎 ～支え合い、高め合い、援助希求できる～

～本校の伝統、継承したい学校文化～

歌声が響く学び舎、挨拶が聞こえる学び舎

●重視したい教育活動

1 「学ぶ力」の育成～未来社会を築く資質や能力の育成、生涯学習に向けた学び方の習得～

- (1) 「課題探究的な学習」等の実践を通して、主体的に自己決定をしながらねばり強く学び続ける力を育む。
- (2) 異質な意見をもつ仲間とも対話しながら学び合う力を育む。
- (3) 指導と評価の一体化をはかり、習得すべき学習事項の確実な定着を図る。
- (4) ICTを活用した効果的な学びを推進することで充実した学びや、深い学びを進める。
- (5) 学びに機能する習熟度別少人数指導など、指導方法の工夫・改善を図る。
- (6) 生徒一人一人の自制心やねばり強さなどの自らの目標を達成する力を高める。
- (7) 学校と家庭が一体となり、より良い学習・生活習慣の形成を支援し自己指導力を育む。

2 「豊かな心」の醸成～多様性を認め合い、主体的、自治的な活動の充実～

- (1) 学級活動、生徒会活動、学校行事の自治的な実践活動を通して自己効力感を高めたり、学級や学年の「絆」づくりを進めたりする経験を通し自分や他者との関わり方を学ぶ。
- (2) 「子どもの心の声を聴き」、学校づくりにそれらを生かしていくことで、一人一人の生徒のよさや可能性を伸ばし、自尊感情を育てる。
- (3) 「地域清掃」や「寺子屋」などの自発的活動であるボランティア体験を大切にすることで、他者が喜んだり、元気になったりする行為を積極的に行う風土を醸成する。
- (4) 学級の諸問題の解決や、学級活動の活性化に向けた学級会において、折り合いを付けて合意形成を図る話し合い活動を充実させる。
- (5) 道徳科の時間の充実を図るとともに、生徒の道徳性の発達に向けた連続性や系統性を重視した支援を行う。
- (6) 自己を見つめ自己理解を進め、自分の生き方や自分の将来についてについて考える。さらに、地域住民との交流を通してキャリア教育の充実を図る。
- (7) 不登校の未然防止や学校復帰や学級復帰に向けた学習支援や教育相談の充実を図る。そのために、学びの支援委員会を時間に位置付けSCや養護教諭、相談支援パートナーとの話し合いを深めることで個に応じた支援を行う。
- (8) 特別な支援を要する生徒へのきめ細かな指導を家庭や関係機関との連携を進めながら行うとともに、インクルーシブ教育の充実を図る。

3 「健やかな体の育成、命を大切にする教育の推進、いじめ防止対策の徹底」

- (1) 援助希求する力や自他の心の危機に気づくなど自他の生命を尊重する教育を推進する。
- (2) 「平岸中学校いじめ防止基本方針」に基づき、保護者、関係機関と連携しながら、いじめの未然防止に努め、学校組織で迅速かつ的確な対処及び、再発防止を進める。
- (3) 安全、安心な学校づくりのため、事故の未然防止を進めるとともに、災害や事故、事件の発生時においては危機管理意識をもって対処して、事案の再発防止の対応を図る。
- (4) 「健やかな体」育成プログラムに基づき、健康教育や食育を推進し、生活習慣の改善とともに体力の向上を図る。
- (5) 教職員自身の心身が健全であることが良質な教育には必要不可欠であるので、「働き方改革」の効果的な取組を推進する。

4 小中一貫教育の推進、コミュニティスクールの基盤固めの実施

- (1) 児童生徒間の交流を図ること、9年間の系統性を踏まえた総合的な学習の時間の計画を模索する。
- (2) まちづくりセンターや連合町内会と協議しながら、本校のコミュニティスクールの「学校運営協議会」の組織を立ち上げる。

自己評価に対する学校関係者評価

自己評価結果(達成状況)～A:十分である B:概ね十分である C:不十分である D:改善を要する
 学校関係者評価結果(適切さ)～A:十分に適切 B:ほぼ適切 C:やや不適切 D:不適切

AとBの境界は3.25

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
求める生徒像1	子ども一人一人が「自分が大切にされている」と実感できる学校作りの実現をめざし、学習指導において「課題探究的な学習」の充実や工夫を図っている。	A→B 3.04	R6まで「分かるできる楽しい授業の工夫」だったので比較はできないが、「課題探究的な学習」の充実に向け、研修会で交流した。次年度も研修テーマとして取り上げ、研鑽を積む	A	A
	生徒一人一人の自己管理能力を高めるとともに家庭学習定着のための取組の充実を図っている。	B→B 3.16	昨年度からは端末を使って家庭学習記録をつけているが定着していない。りんごノートへの記入等、「見える化」を図り、自分の伸びを実感できる流れを作る	A	A
学校関係者評価委員による意見	「課題探究的な学習」については、題材の流れの中で組んでいくべき。家庭学習記録は昨年度から端末を使っているが定着していない。理由として、心の健康をみる「シャポテン」等、様々な端末入力が増えてしまったことが考えられる。アプリを統一すると良い。2つならできて、3つとなると難しくなる。				
求める生徒像2	学校教育全体において道徳教育の充実と改善を図っている。	B→B 3.08	SCの協力の下、学年道徳を実施した。学年の全教諭によるローテーション道徳も定着し、道徳教育の充実につながっている。年間を通し、タイムリーな道徳教育の充実を目指す	A	A
	校内学びの支援委員会等を活用し特別な支援を必要とする生徒への適切な指導を行っている。	B→B 3.20	時間割の中に「学びの支援委員会」を組み込み、学年の担当者、養護教諭、相談支援パートナー、SC等と、細やかに支援生徒の情報を共有した。より効率的な運営をしながら今後も組織的に対応していく。	A	A
	特別支援学級と通常の学級との交流教育の充実を図っている。	B→B 3.12	特別支援学級生徒の希望に応じた交流授業参加を円滑に行った。生徒同士のコミュニケーションも円滑にとれている。支援学級生徒と保護者の希望を大切にしながら今後も継続していく。	A	A
	学校行事や生徒会活動等を通して自己肯定感や、自尊感情を育てている。	A→A 3.56	生徒、教師ともに肯定的意見が高い値で定着。保護者からも高評価を得ている。生徒の行事への満足感が高いことから、生徒の意見を大切にしながら生徒会活動を支えていく。	A	A
	新たな不登校生徒を生まないための取組の充実を図っている。	B→B 3.04	不登校の原因が学校に起因していない場合、改善の難しさを感じているが、「学びの支援委員会」を効果的に活用しながら生徒のここの事情に応じた居場所を確保していきたい。	A	A
	自己理解を進め、自分の生き方や自分の将来について考えるキャリア教育の充実を図っている。	A→B 3.04	R6まで「自分の生き方や進路について考える進路探究学習の充実」だったため、単純な比較はできないが、総合的な学習の時間の中で、充実を図っていきたい。	A	A
	全教職員の共通理解と指導のもと、同一歩調で指導にあたるように努めている。	B→B 2.96	生徒が「大切にされている」と実感できる言葉かけを全教職員の共通理解で進めていく。教職員間のコミュニケーションを大切にし、情報管理を徹底しながら、今年度と同様に素早く情報共有を行っていく。	A	A
学校関係者評価委員による意見	生徒指導から生徒支援へという流れは良い。不登校生への支援も、「学びの支援委員会」を的的に開くなど、十分に行っていると見える。「別室」の存在がとても良い。人材に恵まれたことが大きな要因となっている。				
求める生徒像3	「こどもの声を聴き」、学校づくりに生かしていくことで、生徒の自尊感情を育むように努めている。	B 3.16	今年度は「校則見直し委員会」を発足し、「こどもの声を聴く」機会をつくり、教師と生徒が相談しながら、校則の見直しを図った。来年度も継続していく。	A	A
	「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努め、学校組織で的確に対応している。	A→A 3.36	「いじめ防止基本方針」を軸に、いじめを見逃さないよう組織的に対応した。いじめ案件が起きた際には、丁寧な聞き取りと指導、保護者連絡を行い、その後も見守りを行った。今後も継続していく	A	A
	全校教職員による生徒一人一人の見守りを充実させ、学校事故の未然防止に努めている。	A→A 3.32	教職員が協力しながら、安心して学校生活を送れる環境づくりに努めた。今後も様々な教育活動を通して「自他の命を尊重する」指導を継続していく。	A	A
	「健やかな体」育成プログラムに基づき、健康教育や食育を推進し、生活習慣の改善とともに体力の向上を図っている。	A→B 3.16	保健体育科・家庭科の教員による日常の授業の指導、栄養教諭による給食時間の放送、厚生委員会による昼休みのレク、陸上競技会や雪レク等の学校行事を通して、健康教育と食育の推進を行っている。今後も更に充実させていきたい。	A	A
学校関係者評価委員による意見	保護者アンケートを見ても、多くの肯定的回答を得ている。トラブル等については、学校から丁寧な報告があることから、安心している様子が伺える。				

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
その他 4	14 学校だよりの発行、ホームページなどの充実を図り、積極的な広報活動を行っている。	A→A 3.28	保護者間連絡システム「すぐーる」の運用が定着。さまざまな情報を丁寧に保護者へ発信した。学校HPの更新は更なる努力が必要。	A	A
	15 授業参観、学校行事、懇談会、PTA活動等、広く学校公開に努めている。	A→A 3.36	学校公開日を昨年と同様継続。学期に一回設定し保護者の都合に合わせて来校しやすいようにした。今後も実りある学校公開を実施していく。	A	A
	16 小中一貫した教育を推進し、9年間の系統性を踏まえた教育活動を行っている。	B 2.96	今年度新設項目。パートナー校との全体会は年間3回を実施。R3年度から5年間が経過し、先生同士の交流は定着した。子ども同士の交流も模索する。	A	A
	17 地域や関係機関との連携を深め、効果的で特色ある教育活動を行っている。	B→B 3.00	コミュニティスクールの発足へ向け、今年度は学校運営協議会の立ち上げを図った。	A	A
学校関係者 評価委員 による意見	コロナ禍をきっかけにPTA活動が減ったが、地域とのつながりは必要である。小中一貫と絡めながらコミュニティスクールの発足へ向けた取組は評価できる。部活動の地域化も全国で話題になっているが、札幌市はこれまで通り、先生方が担っている。札幌市の財源などからも難しさがある。				

1-1 「課題探究的学習の充実」 B

・小集団を授業に活用する取組は生徒の約9割が肯定的。話し合い活動による思考の深まりも肯定的な意見が過去3年間で最も高い。一斉授業に偏ることなく、今後も対話的・協働的な授業づくりを継続する。手立てとしての小集団は有効であるが、課題探究的学習については、各教科で取組の更なる工夫が必要。

2-3 道徳教育の充実 B→B

・道徳については、担任を中心としながらも、学年教師でローテーションを組み、全内容項目で授業を行うことができた。
・今年度は全校道徳を実施せず、SCIによる学年道徳を行った。専門的な授業の展開が見られ、生徒のみならず、教師にとっても勉強になる実り多い実践であった。
・挨拶やルール指導を含む「豊かな心、人間関係づくり」の指導の工夫を継続していく。
・道徳的な感性を育む交流や地域・社会に目を向け、多様な人とのふれあいを通じて豊かな社会性を育てていく。

2-6 学校行事等による自己肯定感、自尊感情を育む A→A

・保護者アンケート肯定的回答割合90.5(昨年度91.5 一昨年度92.6) 生徒アンケート肯定的回答割合97.1(昨年度96.2 一昨年度94.1)
・教師自己評価「行事、生徒会活動等を通して、自己肯定感、自尊感情を育てる」でも、A3.56(昨年度 A3.71 一昨年度 A3.63)であり、保護者、生徒、教師ともに、学校行事に肯定的である。
・中でも生徒の肯定的意見が大変高く、心から行事を楽しむ姿が印象的であった。生徒のはじける笑顔が見られ、人の頑張りや努力を認め合う場面のある行事は大変教育的効果が高いと感じている。

3-12 全校教職員による生徒一人一人の見守りを充実させ、学校事故の未然防止に努めている A→A

・教師自己評価「いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努め学校組織で対応している」 A3.36(昨年度 A3.64 一昨年度 A3.37)
・生徒アンケート「先生方は相談しやすく、相談すれば話を聞いてくれる」について、どの学年も9割が肯定的。
・保護者アンケートでも肯定的意見が83.2となっており、学校組織としての対応を評価されていると感じる。今後も継続していきたい。

4-14 積極的な広報活動 A→A

・学校保護者間連絡システム「すぐーる」が定着し、よりきめ細かな保護者への情報発信ができています。生徒、保護者ともに読む学校だよりの等々は従来どおりの紙もので発行し、保護者向けの文書は「すぐーる」で発信するなど、適切な情報発信を心がけていく。
・学校ホームページの更新は昨年に引き続き、更なる努力が必要である。今年度は、校内でのスマートフォン使用が札幌市全体で禁止され、難しさを一層感じている。

4-17 地域や関係機関との連携 B→B

・小中一貫した教育の取組が定着し、今年度は年3回の交流会をパートナー校同士で行った。9年間の学びの見通しをもてるよう、今後も連携を密にしていく。
・コミュニティスクールの実施に向け、今年度は学校運営協議会の組織作りを行った。